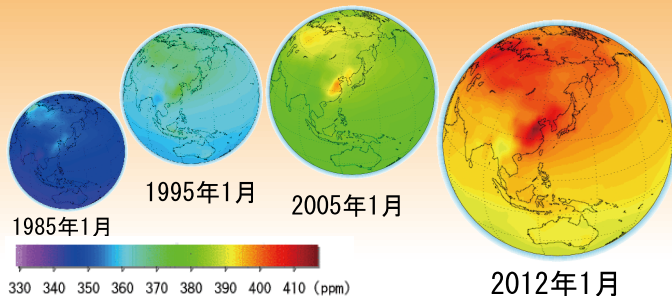
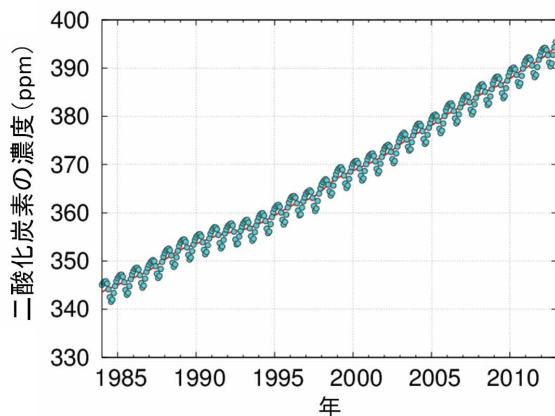


二酸化炭素濃度は増加しています。

大気中の二酸化炭素濃度



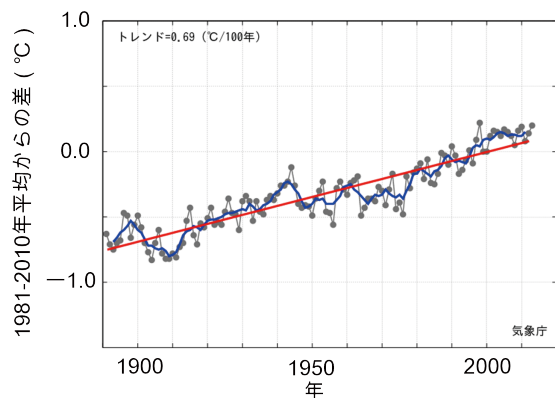
世界の二酸化炭素濃度（大気中の平均）



1984年に344ppmだった二酸化炭素は、2012年には393ppmまで上昇しています。(ppmは百万分の一を表します。)

世界の気温は少しずつ上昇しています。

世界の年平均気温の偏差



このリーフレットでは、地球温暖化への影響が最も大きいとされている二酸化炭素の世界中の分布やこれまでの変化について、気象庁ホームページに掲載している内容を、簡単に紹介しています。この他に「温室効果ガス」のページでは、気象庁が観測している各種の温室効果ガスの濃度変化などがご覧いただけます。

地球温暖化問題は地球上で暮らす私たちにとって、共通の大きな問題です。地球の過去を知り、家庭で、学校で、そして職場で、地球の将来について考えてみませんか。

気象庁は綾里（岩手県大船渡市）南鳥島（東京都小笠原村）与那国島（沖縄県八重山郡）の3ヶ所で、二酸化炭素の精密な観測を行っています。



気象庁 南鳥島気象観測所

気象庁ホームページ 温室効果ガス
http://ds.data.jma.go.jp/ghg/info_ghg.html

気象庁は、世界気象機関（WMO）温室効果ガス世界資料センターを運営しており、世界の温室効果ガスデータの収集・提供および解析をあわせて行っております。
http://ds.data.jma.go.jp/gmd/wdcgg/jp/wdcgg_j.html

お問い合わせ先

気象庁 地球環境・海洋部 環境気象管理官
代表電話：03-3212-8341（内線 4226）

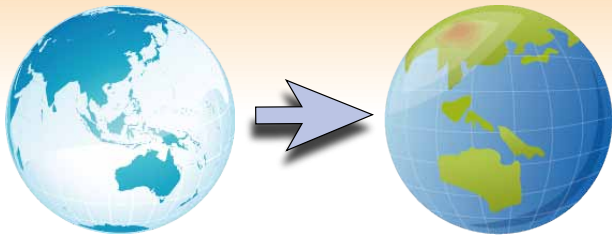
紙ヘリサイクル可

（2014年2月発行）

二酸化炭素のこと 知っていますか？



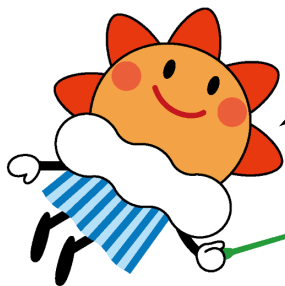
温室効果とは、温室効果ガスの働きにより、地表から出る赤外線の一部が大気に吸収され、熱としてたまることです。温室効果があることで、地球の温暖な気候が保たれています。



しかし、温室効果ガスが増えると、温室効果は今より強くなります。そのため、地球の温度はもっと高くなると考えられています。これが地球温暖化です。

今、人間の活動により、温室効果ガスの一つである二酸化炭素は増え続けています。

気象庁では、国内の3か所で二酸化炭素濃度を測定するとともに、世界のデータを収集し、二酸化炭素の濃度を監視しています。ホームページで、その様子を見ることができます。



それでは、ホームページを見に行こう！



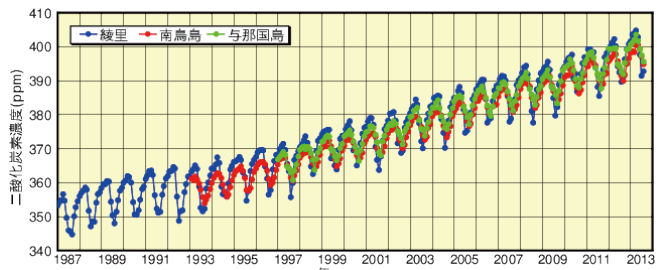
Q どこで見られるの？

気象庁ホームページから見られます。
http://ds.data.jma.go.jp/ghg/info_ghg.html
 ホーム > 各種データ・資料 > 地球環境・気候 > 温室効果ガス
 また、温室効果ガスweb科学館（基礎的な知識）では、ツアー形式で見ることができます。
http://ds.data.jma.go.jp/ghg/kanshi/info_tour.html



Q 日本ではどうなっているの？

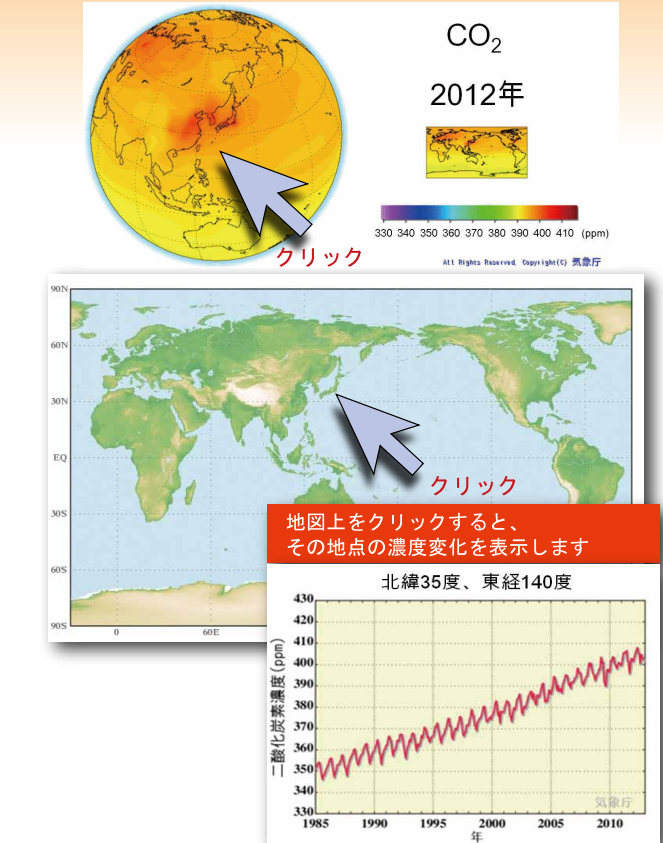
気象庁で観測を行っている、国内3ヶ所の二酸化炭素のデータが見られます。



最近では、日本でも400ppmを超えるようになってきたんだ。

Q 世界ではどうなっているの？

コンピュータで解析した世界中の二酸化炭素の様子が見られます。（二酸化炭素分布情報）



提供する二酸化炭素分布情報
 期間：1985年-2012年
 毎年、新しいデータを追加していきます。
 内容：毎月および毎年の平均濃度（地表面および高度6km）

季節や場所によって濃度は変わるんだね。

